

国立大学法人等評価実務担当者研修会 実施報告

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する第 3 期中期目標期間の教育研究の状況の評価について、国立大学法人等の評価実務担当者からの実績報告書の作成方法等に関する質問・相談に対応することにより、評価の円滑な実施に資することを目的として以下のとおりオンラインで実施した。

〈日 時〉

令和 4 年 1 月下旬～ 2 月中旬

- ※ 事前の日程照会に基づき、法人ごとに日時を指定して実施
- ※ 各法人の研修会実施時間は 30 分程度

〈実施法人数〉

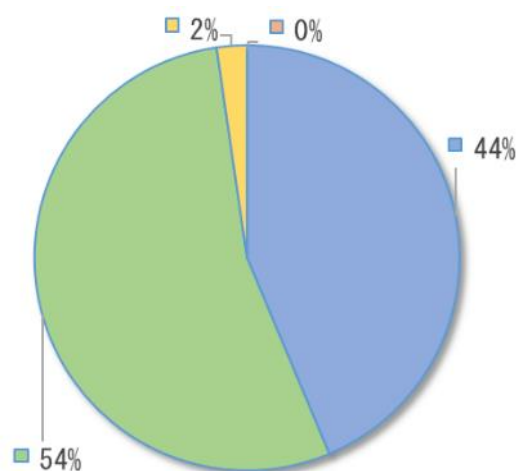
86 法人

〈アンケート実施結果〉

【概要】

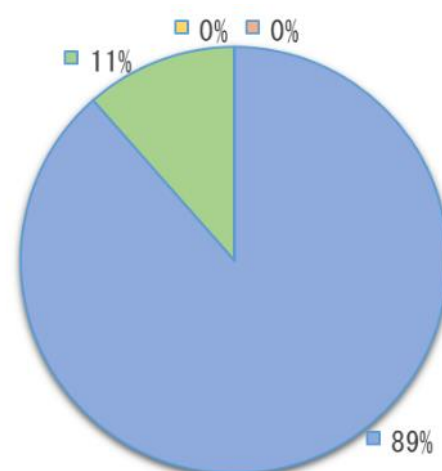
- 調査方法：各法人の研修会終了後、アンケートフォームの URL を通知
- 集計期間：2022 年 1 月 24 日～2022 年 2 月 28 日
- 回答数：87 件

Q 1. 参加して疑問点は解消しましたか



- 1. すべて解消した
- 2. おおむね解消した
- 3. 一部疑問が残った
- 4. 疑問は解消しなかった

Q 2. スタッフの対応はいかがでしたか



- 1. 良い
- 2. おおむね良い
- 3. やや悪い
- 4. 悪い

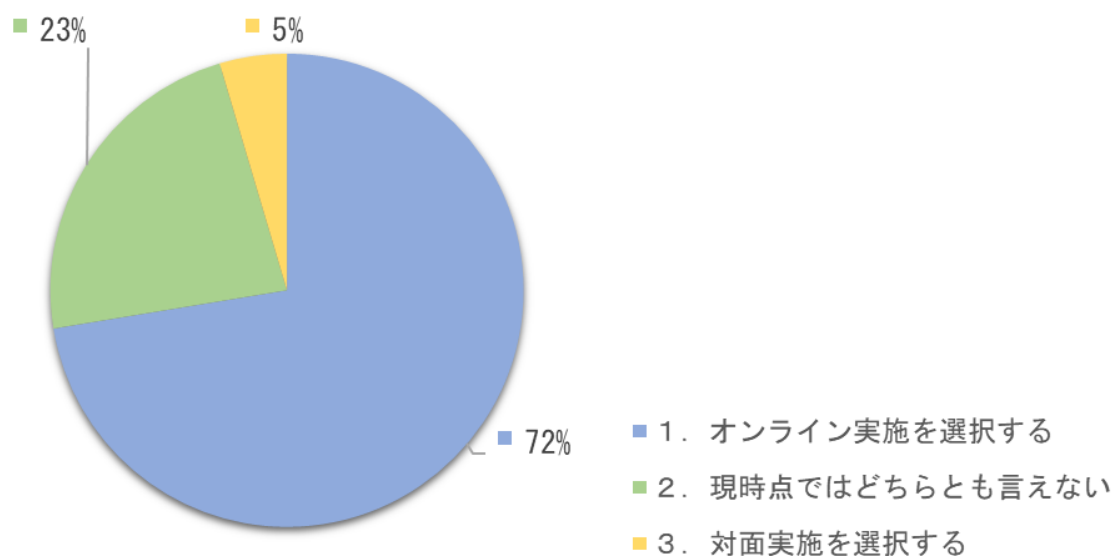
「Q1」で3または4と回答した理由（自由記述）

- ◆ 評価書の作成方法等についてこちらの理解が足りていなかった点・評価の基準が定められておらず各先生方にある程度ゆだねられているところがある点。
- ◆ 数値実績だけではなく、そこに至る取組も評価の際には考慮するといわれていたが、一方、4年目終了時評価の時は数値未達に外的要因として考慮したのは、「コロナ（留学生派遣や受入増）、教員占有率に係る全体採用数の増加」で現時点ではそれ以外の要因が考慮されるか分からないと言われていた。つまり、数値目標未達なら取組は考慮されないのでは？という印象を受けた。実際のところ評価者の判断によるのか否か不明瞭だった。

「Q2」で3または4と回答した理由（自由記述）

該当なし

Q3. 今後、同様の研修会を行う場合、オンラインと対面のどちらを選択しますか。
（新型コロナウイルスの影響を除外し、純粹に実施手段として比較）



「Q3」で回答した理由（自由記述） ※主なものを一部抜粋

- 【1. オンライン実施を選択する】と回答した理由
 - ◆ 出張に係る負担が減り、多数の担当者が参加しやすくなることで、担当者間での共通理解を持つことができる。
 - ◆ 会場への移動に伴う労力及び経済的負担、また時間的拘束が大幅に軽減されたことで、対面型よりも多くの者が研修会に参加することができ、書類作成に関する情報共有がスムーズに行えたため。なお、特に今回のような個別の研修会では、他大学に配慮することなく、本学の具体的な中期計画を示しながら、個別の疑問に対して直接ご説明を伺うことができ、より有意義な機会とすることができた。

- 【2. 対面実施を選択する】と回答した理由
 - ◆ 対面の方が相手の印象が強く残り、今後の連絡をする際に抵抗が減ると考えられるから。※旅費の負担がないというメリットはあり、一長一短ではある。
 - ◆ オンラインの場合、通信環境などにより音声聞きづらいこともあり、できることなら対面で行いたい。また、対面の方が細かい点をその場で確認しやすい。
 - ◆ 対面実施の方が、コミュニケーションがとりやすい。また、他大学と合同の場合は、対面であれば情報交換の場にもなる。

- 【3. 現時点ではどちらとも言えない】と回答した理由
 - ◆ 移動の負担を考慮するとオンラインが望ましいが、対面の方が話しがしやすく、また、他大学の進捗状況等も把握しやすいため。
 - ◆ オンライン実施であれば、個別の相談が可能であり、また移動の負担がないという利点がある一方、対面であれば、機構のご担当の方、他大学のご担当の方との交流をはかることができる。それぞれに良さがあるかと存じます。
 - ◆ 今回のようにWebでも録音等せずに、大学の内情を正直に話しても良いというような会として設定されているのであれば、オンラインで実施したいが、Webではお話できないような事情がある場合には対面を選択するかと思う。